

作業遂行時における幼児と母親の会話のスタイルシフトと脱文脈化

田中弥生(神奈川大学/国語研究所) 藤越(東京大学大学院生/国語研究所) 小磯花絵(国語研究所)

1. はじめに

本研究は、幼児と母親の会話におけるスタイルシフトの様相について、脱文脈化程度の観点からの検討を試みるものである。ここで脱文脈化程度とは、コミュニケーションが行われている「今ここ」の時空とその発話内容との、時間的・空間的距離の程度をさす。子どもは就学すると教室での授業において、情報の“脱文脈化”と“文脈化”という二つの知的作業を課され、日常生活文脈に密着した状況的な思考から、そこから切り離された抽象的で無性格的な思考に慣れることが重要な課題となるという(岩田, 1995)。田中・小磯(2019)では、家庭における食事場面の親子の会話の分析から、幼児の発話は基本的には「今ここ私」に近く脱文脈化程度の低いものであるが、両親の脱文脈化程度の高い発話をきっかけに、幼児も脱文脈化程度の高い発話を行うことがあることを指摘している。

スタイルに関する研究の中で、丁寧体と普通体の使用については、これまで、話し手の待遇意識、感情、態度などに関わる意味用法であることが指摘され、幼児や児童の会話における研究も行われている。例えば、Fukuda(2005)は友達や父親、兄弟との遊び場面における3歳児の会話を分析し、先行研究で述べられているのと同様に、幼児が遊びの場面における社会的役割に応じて丁寧体と普通体を使い分け、選択的・積極的に言語実践に参加していることを示している。Cook(1997)は、家庭での親子の会話を検討し、家族の会話の中では普通体の使用が一般的であり、また、丁寧体が丁寧さの指標としては使われておらず、親・子のいずれの発話においても1. 公的な自己の表出、2. 自分が責任を持つ事柄についての言及、3. 定式化された表現を表す、という3つの主要な会話文脈の指標となっていることを示している。しかし、これまでの研究では主に丁寧体の習得や機能が着目されており、そのスタイルが使用される発話そのものの特徴については十分に明らかになっていない。

そこで本研究では、スタイル分析に脱文脈化の観点を取り入れるケーススタディとして、作業遂行時における幼児と母親の会話におけるスタイルシフトと脱文脈化程度の特徴を確認し、連関の有無を検討することを目的とする。具体的には、①丁寧体と非丁寧体の出現と、それぞれの発話の修辞機能と脱文脈化指数を確認することと、②幼児と母親のスタイルシフト発生における脱文脈化指数の変化の有無を確認することを、課題とする。

2. 分析対象と分析方法

分析対象は、4歳男児と母親の手打ちうどん作りの際の2名の会話(約32分)である¹。

分析方法は、1)スタイルの確認、2)修辞機能と脱文脈化指数の確認、3)スタイルシフトと脱文脈化指数変化の関連の確認とする。修辞機能と脱文脈化指数の確認には、修辞ユニット分析²(佐野・小磯2011)の分類法を用いる。この分類法の概要は2.2に示す³。

2.1. スタイルの確認

本研究では、普通体のみでなく、(1)の子の発話なども含めて非丁寧体とし、丁寧体と非丁寧体の出現を確認する。

- (1) 母 はい じゃ うどんづくりするにはまず何が必要ですか
子 こな

2.2. 修辞機能と脱文脈化指数の確認

2.2.1. 分析単位の特定と分類

分析単位の「メッセージ」は概ね節に相当し⁴、4つのメッセージの種類に分類する。「位置付け」は「はい」「うーん」「ありがとう」などの相槌や定型句、述部がなく復元ができないものや挨拶などが該当し、基本的には修辞機能と脱文脈化指数の付与の対象とはならない。ただし、本研究では丁寧体・非丁寧体の区別があるため、その出現数の確認は行い、集計に含めた。「拘束; 意味的従属」は従属節のうち、「それはちょっと長いので」や「もし時間がなければ」のような理由や条件などを表しているものが該当し、単独では分類しない。それ以外の従属節は「拘束; 形式的従属」に分類し、主節の「自由」とともに分析対象となる。

¹ このデータは、国立国語研究所共同研究「子供の言語コミュニケーション研究に向けた基盤整備」によって収録されたものである。

² Rhetorical Unit Analysis (Cloran 1994, 1999)を日本語に適用したものである。

³ 詳細は、佐野2010a, 佐野2010b, 佐野・小磯2011, を参照のこと。

⁴ 連体修飾節は独立したメッセージとして扱わない。

2.2.2. 発話機能・中核要素・現象定位の認定と修辞機能・脱文脈化指数の確認

メッセージの種類が「拘束; 形式的従属」及び「自由」と認定されたメッセージについて、発話機能・中核要素・現象定位を認定する。表1に示したように、これらの組み合わせから、修辞機能と脱文脈化程度が特定される。

図 1. 修辞機能と脱文脈化指数



表 1. 発話機能・中核要素・現象定位からの修辞機能・脱文脈化指数の特定

		発話機能							
		命題							
		現象定位							
		現在				未来			
		非習慣的・一時的	習慣的・恒久	過去	意図	非意図	仮定		
中核要素	状況内	参加	[1] 行動	[7] 自己記述	[3] 状況内回想	[4] 計画	[5] 状況内予想	[6] 状況内推測	
	非参加		[2] 実況	[8] 観測					
	状況外	n/a	[9] 報告	[13] 説明	[10] 状況外回想		[11] 予測	[12] 推量	
	定言		n/a	[14] 一般化					

表1と図1の数字は脱文脈化指数で、図1に示すように、その会話の場(今ここ)に最も近い(脱文脈化指数が低い)ものから、最も遠い(脱文脈化指数が高い)ものまで配置されている。

1) 発話機能は「提言」か「命題」で、「提言」は(2)(3)のような行為や品物の交換に関する提供・命令で、基本的には「今ここ」の発話である。修辞機能は【行動】、脱文脈化指数は[1]⁵と特定される。「命題」は、情報を交換する陳述・質問が該当し、このあと中核要素と現象定位を認定する。

- (2) ちょっともう一回ここを踏んで (命令) 発話機能：提言 → 【行動】 [1]
 (3) かぞえます (自分の行動の提供) 発話機能：提言 → 【行動】 [1]

2) 中核要素は、基本的に主語によって表現され⁶、「状況内」「状況外」「定言」に分類する。「状況内」は、中核要素がメッセージの送り手や受け手のいる場に存在する人や事象の場合に該当し、下位分類としてメッセージの伝達に参加している送り手・受け手を「状況内;参加」、参加していない人や事象は「状況内;非参加」に分類する。「状況外」は、中核要素がその場に存在しない人や事象の場合である。「定言」は、普遍的な性質などを述べているメッセージの主語が該当する。中核要素が省略されている場合には復元して認定する。(4)の中核要素は「君は」で「状況内;参加」、(5)は「粉の煙が」で「状況内;非参加」、(6)は「ドライフルーツって」で「定言」である。

3) 現象定位は基本的にテンスや時間を表す副詞などによって表現され、「過去」「現在」「未来」「仮定」に分類する。メッセージの内容が、すでに起こった出来事であれば「過去」、その時すでに起こっていることであれば「現在」となる。「現在」のうち、(5)のように一時的な事象であれば「現在;非習慣的・一時的」、(6)のように普遍的なことや習慣的な事象は「現在;習慣的・恒久」に分類する。まだ起こっておらず、これから起こる事象は「未来」で、意図を持って実行できるか否かによって「未来;意図的」か「未来;非意図的」に分類する。(4)は「未来;意図的」である。なんらかの条件のもとで出来事が起こる場合には「仮定」に分類する。

脱文脈化指数は、発話が行われている「今ここ」の時空とメッセージの内容との距離である。(4)(5)(6)では修辞機能を【】で、脱文脈化指数を[]で示した。

- (4) これがくるくるとしてラップする間 君は 何をしますか 命題&状況内;参加&未来;意図的 → 【計画】 [4]
 (5) 粉の煙が いっぱいだね 命題&状況内;非参加&現在;非習慣的・一時的 → 【実況】 [2]
 (6) ドライフルーツって こういう粉ぐらいで つくるんだよ 命題&定言&現在;習慣的・恒久 → 【一般化】 [14]

3. 分析結果と考察

3.1. 丁寧体と普通体の使用率

全体の丁寧体使用率は、母の発話で34.7%、子の発話で21.5%であった。小磯(2019)では、『日本語日常会話コーパス』を用いた多様な場面の会話の分析から、相手が配偶者や父母、子ども、兄弟姉妹などの家族に対してはあまり丁寧体を用いないことを指摘している。本研究のデータは、比較的小磯(2019)の丁寧体の使用が多いと考えられる。

手打ちうどん作りのデータであるため、準備→計量→生地作り→足踏み→ねかせ→伸ばしという作業段階があり、発話にはうどん作りの作業に関わるものとそうでないものがある。表2に作業に関わる内容か否かによるスタイルの頻度を示す。母子ともに作業に関

表 2. 発話内容の作業の関わりと使用スタイル

		丁寧体		非丁寧体	
作業	子	29	24.2%	91	75.8%
	母	96	36.8%	165	63.2%
非作業	子	3	10.3%	26	89.7%
	母	18	26.5%	50	73.5%

⁵ 以下、修辞機能を【】に、脱文脈化指数を[]に示す。

⁶ 主題が中核要素になる場合もある。中核要素の認定基準を現在検討中である。

わる発話において丁寧体の使用が多く、このデータの丁寧体の多さは、作業に関わる発話における特徴によるものであることがうかがえる。

3.2. スタイルと修辞機能及び脱文脈化指数

丁寧体と非丁寧体ごとの修辞機能と脱文脈化指数を確認した結果を、表3に示す。母子ともに、スタイルに関わらず、【行動】[1]と【実況】[2]という脱文脈化程度の低い発話が多い。【行動】はその場での相手への行為・物の要求や自分の行為・物の提供で、【実況】はその場での自分と相手の状況やその場にあるものについての言及である。以下で、スタイルシフトが起きている箇所や、スタイルと脱文脈化指数の対応関係を示す箇所を詳細に見ていく。

データ冒頭のうどん作りの準備の(7)で、ふざけてカメラにチューしようとする子に向けた母のaの丁寧体【実況】[2]に対してeの丁寧体【実況】[2]で子の応答がある。間に挟まれた母のbの丁寧体の質問【説明】[13]は、うどん作りに何が必要かという脱文脈化程度の高い発話で、その返答【説明】[13]は同じ脱文脈化指数だが、スタイルは異なっている。ここでは、母の発話への子の応答は同じ修辞機能・脱文脈化指数で行われている場合でも、スタイルはかならずしも母のスタイルに対応しているわけではないことがわかる。

- | | | | | |
|---------|---------------------------|------|-----------------------|----------|
| (7)a. 母 | ちゅっちゅされんのかです | 丁寧体 | 命題&状況内;参加&現在;非習慣・一時的 | 【実況】[2] |
| b. 母 | はい じゃ うどんづくりするにはまず何が必要ですか | 丁寧体 | 命題&状況外&現在;習慣的・恒久 | 【説明】[13] |
| c. 子 | こな | 非丁寧体 | 命題&状況外&現在;習慣的・恒久 | 【説明】[13] |
| d. 母 | ちょっともういいから | 非丁寧体 | 提言 | 【行動】[1] |
| e. 子 | いっぱいちゅっちゅされます | 丁寧体 | 命題&状況内;非参加&現在;非習慣・一時的 | 【実況】[2] |
| f. 子 | ママも近くにきて | 非丁寧体 | 提言 | 【行動】[1] |

生地作りにおける(8)は脱文脈化指数の低い【行動】[1]と【実況】[2]が用いられている。母のaの丁寧体での作業指示【行動】[1]に対して子はbで丁寧体で答え、作業に関する子の丁寧体の質問fに対して母はgで丁寧体で問いの確認をしている。dとiはその時の作業の状況を認識したことの独白【実況】[2]で、非丁寧体が用いられており、ここでは子の作業に直接関わる発話【行動】[1]と、自分自身の認識の発話【実況】[2]との間で、スタイルシフトが見られる。

- | | | | | |
|---------|-----------------------|------|-----------------------|---------|
| (8)a. 母 | まずお塩混ぜてください | 丁寧体 | 提言 | 【行動】[1] |
| b. 子 | はい お塩混ぜまーす | 丁寧体 | 提言 | 【行動】[1] |
| c. 母 | 溶けるまでまぜてくださいーい | 丁寧体 | 提言 | 【行動】[1] |
| d. 子 | 水白いな | 非丁寧体 | 命題&状況内;非参加&現在;非習慣・一時的 | 【実況】[2] |
| e. 母 | お願いしまーす | 丁寧体 | 提言 | 【行動】[1] |
| f. 子 | どこにスプーンがあるのかわかりません | 丁寧体 | 命題&状況内;参加&現在;非習慣・一時的 | 【実況】[2] |
| g. 母 | 粒があるかわかりませんか? | 丁寧体 | 命題&状況内;参加&現在;非習慣・一時的 | 【実況】[2] |
| h. 母 | とにかくくるくるくるってやってみましょうか | 丁寧体 | 提言 | 【行動】[1] |
| i. 子 | あ もう溶けた | 非丁寧体 | 命題&状況内;非参加&現在;非習慣・一時的 | 【実況】[2] |

生地作りで粉を混ぜている途中の(9)で、子がaで唐突に、ドライフルーツの生成方法について(真偽はともかく)説明を始めた。スタイルは非丁寧体で、脱文脈化指数の最も高い発話【一般化】[14]である。うどん作りの作業遂行においては丁寧体で脱文脈化指数の低い発話を行っていたことから、スタイルと脱文脈化程度の対応もうかがえるが、本データで【一般化】[14]がこの箇所のみ出現のため、関連があるとまでは判断できない。

- | | | | | |
|---------|-----------------------|------|-----------------------|-----------|
| (9)a. 子 | ドライフルーツってこれ こういう粉ぐらいで | 非丁寧体 | 命題&定言&現在;習慣的・恒久 | 【一般化】[14] |
| b. 母 | そうなの? | 非丁寧体 | 命題&状況内;非参加&現在;非習慣・一時的 | 【実況】[2] |
| c. 母 | ドライフルーツこういう粉で作るの? | 非丁寧体 | 命題&定言&現在;習慣的・恒久 | 【一般化】[14] |

表 3. スタイルごとの修辞機能と脱文脈化指数

	子		母	
	丁寧体	非丁寧体	丁寧体	非丁寧体
位置付け	1	5	10	23
行動[1]	15	24	57	80
実況[2]	8	65	35	93
状況内回想[3]	0	0	0	1
計画[4]	1	2	4	4
状況内予測[5]	1	6	2	3
自己記述[7]	2	3	1	2
観測[8]	4	7	3	6
説明[13]	0	1	2	2
一般化[14]	0	4	0	1
計	32	117	114	215

d. 母	おかあさん 知らなかった	非丁寧体	命題&状況内;参加&現在;非習慣・一時的	【実況】 [2]
e. 子	普通の粉でつくってもいいんだよ	非丁寧体	命題&定言&現在;習慣的・恒久	【一般化】 [14]
f. 子	何の粉でも作れるよ	非丁寧体	命題&定言&現在;習慣的・恒久	【一般化】 [14]

うどんをビニール袋とタオルに包んで足で踏んでいる足踏み時の(10)では、母は指示・指導する側として丁寧体を用い、子はうどんを作る人になりきって丁寧体で手順を解説している。bはうどん作りのコツ【観測】 [8]で他の発話より脱文脈化指数が高めである。e, gは具体的な指示や状況で、脱文脈化指数は低い。後半のhとjで、子はその場で浮かんだうどん作りの手順の一部についての疑問【自己記述】 [7]を、母に向けて非丁寧体で述べ、母も非丁寧体で応答している。このh, jはうどん作りをする人がやり方に不明なことができてしまい、うどんを作る人という役割をはずれて素の自分になって質問していることが考えられる。また母のiは子のそのスタイルシフトに影響されて素の自分になって応答していると考えられる。

(10)a. 母	大丈夫ですか?	丁寧体	命題&状況内;参加&現在;非習慣・一時的	【実況】 [2]
b. 子	ここはね 手で押して 全体的に	ちゃんと	ほんぽんって	手で最後までつかないとおいしくなりません
		丁寧体	命題&状況内;非参加&現在;習慣的・恒久	【観測】 [8]
c. 母	はい OK ですか?	丁寧体	命題&状況内;参加&現在;非習慣・一時的	【実況】 [2]
d. 子	はい		(位置付け)	
e. 子	それで待ってください	丁寧体	提言	【行動】 [1]
f. 子	こうになりましたよね	丁寧体	命題&状況内;非参加&現在;非習慣・一時的	【実況】 [2]
g. 子	全体に こなを つめて いただきます			
		丁寧体	提言	【行動】 [1]
h. 子	ねえ どうやってこな全部つめんの?			
		非丁寧体	命題&状況内;参加&現在;習慣的・恒久	【自己記述】 [7]
i. 母	うん? なになになに?	非丁寧体	命題&状況内;非参加&現在;非習慣・一時的	【実況】 [2]
j. 子	どうやって粉ぜんぶつめんの?	非丁寧体	命題&状況内;参加&現在;習慣的・恒久	【自己記述】 [7]

4. まとめと今後の課題

本研究では、作業遂行時における幼児と母親の会話におけるスタイルシフトと脱文脈化程度の特徴を確認し、連関の有無を検討することを目的とし、うどん作りという作業遂行時の発話を分析対象として、①丁寧体と非丁寧体の出現と、それぞれの発話の修辞機能と脱文脈化指数の確認、②幼児と母親のスタイルシフト発生における脱文脈化指数の変化の有無の確認を行った。分析の結果、作業遂行時における母子の発話は非丁寧体が多く見られた。小磯(2019)における日常場面全般の親子会話と比べると丁寧体の使用が多いが、幼児は役割を演じる時に丁寧体を使うことがある(Fukuda2005)とされており、うどん作りで役割を演じていることが考えられる。丁寧体発話は「うどん作りを指導する人」「うどん作りをする人」の役割、すなわちロールプレイのときに主に用いられること、役割をはずれるときは非丁寧体発話になること、修辞機能と脱文脈化指数は、作業手順の指示や状況を述べる【行動】 [1]、【実況】 [2]や、手順を説明する【自己記述】 [7]【観測】 [8]が用いられていることがわかった。

今回の分析対象は全体的に脱文脈化指数の高い修辞機能の発話が少なかったため、スタイルと脱文脈化指数との関係を分析することはできなかった。今後の課題として、脱文脈化指数の高い修辞機能が用いられる場面のデータを検討することがあげられる。また、幼児の丁寧体使用は、その家族内での丁寧体使用率や、場面にもよると考えられるため、他の場面や他の親子のスタイルと脱文脈化の連関についてさらに検討していく。

謝辞 本研究は国立国語研究所共同研究「子供の言語コミュニケーション研究に向けた基盤整備」によるものです。調査にご協力くださった方に感謝します。また、本研究はJSPS 科研費 JP 19K00588, JP 18KT0035, JP20H01264 の助成を受けたものです。

参考文献

Cloran, C. (1994). *Rhetorical units and decontextualisation: An enquiry into some relations of context, meaning and grammar*. Ph. D. thesis, Nottingham University.

Cloran, C. 1999. Contexts for Learning. In Christie, F. ed. *Pedagogy and the Shaping of Consciousness*. London: Cassell. 31- 65.

Cook, H. M. (1997). The role of the Japanese masu form in caregiver-child conversation, *Journal of Pragmatics*, 28, 695-718.

Fukuda, C. (2005). Children's use of the masu form in play scenes. *Journal of Pragmatics*, 37, 1037-1058.

岩田純一(1995). 児童の心理学 有斐閣

小磯花絵(2019). 『日本語日常会話コーパス』モニター公開版：研究の可能性 言語資源活用ワークショップ発表論文集, 4, 392-401.

佐野大樹(2010a). 「日本語における修辞ユニット分析の方法と手順 ver. 0. 1. 1-選択体系機能言語理論(システミック理論)における談話分析(修辞機能編)」 <http://researchmap.jp/kotonoha/>資料公開/ (RUA の方法と手順 ver. 0. 1. 1) 2021/1/8 閲覧

佐野大樹(2010b). 選択体系機能言語理論を基底とする 特定目的のための作文指導方法について—修辞ユニットの概念から見たテキストの専門性— 専門日本語教育研究, 12, 19-26.

佐野大樹・小磯花絵(2011). 現代日本語書き言葉における修辞ユニット分析の適用性の検証—「書き言葉らしさ・話し言葉らしさ」と脱文脈化言語・文脈化言語の関係— 機能言語学研究, 6, 59- 81.

田中弥生・小磯花絵. (2019). 家庭での幼児の発話の修辞機能：脱文脈化の観点からの検討. 言語資源活用ワークショップ発表論文集, 4, 106-118.